

1 山口逢春 三熊野の那智の御山

〈部分〉

1 山口蓬春 三熊野の那智の御山 一幅

大正十五年（一九二六） 絹本着色

本紙二四三・五×一三四・五

第七回帝国美術院展覧会（帝展）において特選、および帝国美術院賞を受賞し、さらに宮内省によって買い上げられたことで、当時三十三歳とまだ年若かった山口蓬春（一八九三―一九七二）の名を一举に知らしめた出世作である。山口は、はじめ洋画を志して東京美術学校西洋画科に入学したが、途中で日本画科に転向し卒業後は松岡映丘の主宰する新興大和絵会に参加した。古画の学習を重んじた松岡のもとで学んだだけに、本図も那智の滝とその背後から昇る日輪は「那智滝図」（根津美術館蔵）を意識したものであり、また現実には一望することのできない熊野灘から那智の大滝までを一つの画面に収める構成は「熊野参詣曼荼羅図」を参照するなど、古画を近代的感覚で再解釈した作品となっている。

山口は本図の制作にあたり、熊野本宮大社、熊野速玉大社、熊野那智大社（これらを指して三熊野という）をめぐる、写生を繰り返したという。俯瞰構図で神社の社殿などを描きながら、那智の滝を見上げる角度で描く点は、現地での瀑布を目の当たりにして感じた迫力を重視した結果だろう。写生によって得たイメージを緻密にまとめあげた画面構成には作者の並々ならぬ技量がうかがえる。また濃密な彩色は新興大和絵会の作家たちに共通する特徴であるが、山口は「荘厳な心持ちを表わすために上部をかなり重厚に塗り」と語っており、霊場である熊野の神聖さを表現することに心を砕いていたことがわかる。

- ・各展覧会図録中，作品名や作者，制作年などの表記は，図録発行当時のものです。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録の著作権はすべて宮内庁に属し，本ファイルを改変，再配布するなどの行為は有償・無償を問わずできません。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録（PDF ファイル）に掲載された文章や図版を利用する場合は，書籍と同様に出典を明記してください。また，図版を出版・放送・ウェブサイト・研究資料などに使用する場合は，宮内庁ホームページに記載している「三の丸尚蔵館収蔵作品等の写真使用について」のとおり手続きを行ってください。なお，図版を営利目的の販売品や広告，また個人的な目的等で使用することはできません。

花ひらく個性、作家の時代―大正・昭和初期の美術工芸

三の丸尚蔵館展覧会図録 No. 50

編集 宮内庁三の丸尚蔵館

制作 株式会社 東京美術

翻訳 横溝廣子

発行 宮内庁

平成二十二年三月三十日発行

© 2010, The Museum of the Imperial Collections